

木本議員 皆様、おはようございます。5番木本です。足元の悪い中、本日は、45分から小学生の皆さんが来てくださるそうで、とても嬉しく思います。ありがとうございます。それでは、始めます。先日、町内の「市宇ヶ丘学園」を視察した際、心温まる取り組みに感動しました。教育長のご尽力で、手作りの防災マップが壁一面に掲示され、児童が自然と防災を学べるよう工夫されていました。また、校長先生は町のフォトコンテストの賞金でサッカーボールを寄贈され、子どもたちへの深い愛情と地域への思いが伝わってきました。このような現場の努力に敬意を表しつつ今後の課題や改善点について、以下のとおりお伺いしたいと思います。①ICT教育におけるタブレット端末の活用と課題について、1、新聞記事では児童・生徒がタブレット端末でインターネット検索をしている際に、教育上不適切なCMや広告が表示されている。フィルタリング機能を導入していても完全に防げない状況にあるとのこと。どのような対策を講じられていますか。2、牟岐小学校におけるタブレット端末の使用実態について特に児童・生徒がタブレットを持ち帰り、家庭学習に活用されていますか。3、タブレットのアプリなどは、どのようなものを使っていますか。自由にアプリが取り入れられないのが現状です。海陽町ではICTにとっても詳しい教員がいます。美波町はICTサポーターが株式会社あわえの協力を得て、各校に週1日配属されています。牟岐町にも専門の方がいてくれたらと思います。2番、学校図書の活用状況及び図書費の現状について、学校図書館は子どもたちの知的好奇心や読解力を育てる大切な場所です。その活用状況と財政面の実態について伺います。1、図書の貸出状況について、児童・生徒が日常的にどの程度、学校図書を利用して読書活動を行っているのか、貸出冊数や利用頻度、学年別の傾向等について現状をお示しください。2番、学校図書費の計上について、図書費が設けられていないとのことですが、図書購入の予算措置や、今後の改善の見込みについてお伺いします。3番、牟岐町の子どもたちの「知・徳・体」に関する課題について、1、子どもたちの学力・体力の現状とその対策についてです。全国学力調査や向上、健康診断などから、学力の定着や体力について、町としてどのように分析されているのか。そして、今後、子どもたちの健やかな成長を支えるため、どのような対応を取っていくのか、町の方針をお伺いします。2、子どもの特性や支援と保育園から中学校までの連携についてです。発達特性や個性を持つ子どもたちが安心して学び、育っていくためには、保育園、小学校、中学校の連携が非常に重要です。現在、その連携は、どの程度実現できているのか。また、形だけにとどまらず、実際に機能する支援体制づくりについて、町として、どのように取り組んでいるのかをお聞かせください。以上、3点について

て、町のご所見をお伺いします。

喜田議長 今津教育長。

(今津教育長 登壇)

今津教育長 木本議員のご質問にお答えします。一つ目のタブレットのことですが、インターネット広告の表示については、牟岐小・中学校では、各学級においてインターネットを利用した調べ学習等を行っていますが、現時点ではコンピューター操作中に突然表示されるウインドウ、いわゆる「ポップアップ」については、確認されていません。今後の対策としてブロック等の措置が考えられます。しかし、ポップアップをフィルタリングでブロックすることで「デジ防災」のプレビュー機能が利用できなくなるなど、学習上必要な機能に影響を及ぼす可能性があるため、慎重な対応が求められます。タブレットの家庭での使用状況についてですが、タブレットを持ち帰り、家庭で活用する取り組みとして、牟岐中学校では今現在まだ出来ていませんが、牟岐小学校では主体的な学びを促す「e-ライブラリー」を活用し、授業の復習を行っています。昨年度は6年生が宿題として利用し、個別の習熟度に応じたドリル学習などができるため、個別の最適な学びに役立っています。また、教科によっては家庭での学習成果を記録し、学級内で共有する取り組みを行っています。今年度は、運動会の鼓笛パレード練習において、春休み期間中に演奏楽曲をパート別にタブレットへ収録し、持ち帰って練習を行いました。運動会までの期間が短い中、効果的な活用ができたと考えています。今後は警報発令時などに家庭とオンラインで連絡をとる体制を整えていく予定です。家庭のWi-Fi環境に関する配慮が必要な場合もあるため、学校・保護者と協議を進めながら、適切な対応を検討してまいります。導入アプリですが、デジタル教科書が入っています。算数については児童用は5・6年生に、教師用は全学年に導入されています。理科に関しては、教師用として5・6年生向けに導入されています。文字や図表の拡大機能、動画やアニメーションなど、多様なコンテンツを活用できるため、学習効果の向上に寄与しています。また、他にはメタモジクラスルーム、スマイルドリル、ラインズe-ライブラリー、「デジ防災」、アイビスペイントなどのアプリを活用し、学習活動の充実を図っています。以上のように、タブレットの活用を通じて、児童・生徒がより効果的に学習できる

よう取り組み、さらなる学習環境の充実に努めてまいります。なお現在、ＩＣＴ専門または詳しい教員はいませんが、昨年と一昨年は１１月から１２月の２ヶ月間だけですが、牟岐小・中学校のＨＰを管理している「ｅ-とくしま推進財団」、今、とくしま産業振興機構 地域ＤＸ推進部に変更になっていますが、そこよりＩＣＴに詳しい職員、元大手ＩＣＴ企業経験者を配置して下さり、ＩＣＴ機器の動作チェック、操作のサポート、教職員がＩＣＴを有効活用するためのアドバイスなど学校現場における様々な問題解決を図るために、相談・援助を行っていただきました。次に、２つ目の学校図書の活用状況及び図書費の現状ですが、学校図書の活用については、小中学校で多少状況が異なりますが、ともに図書の貸出や利用促進に関して一定の課題が見られます。小学校では、図書の貸出冊数などをファイルで管理し、児童がどのような本を借りているかを記録しています。しかしながら、学校に所蔵されている本の数が少なく、児童の読書ニーズを十分に満たすことができていない状況です。そのため、図書室の利用頻度はそれほど高くなく、積極的な活用には至っていません。しかし一方で、図書館から毎月、各学級に３０冊の本が貸し出されることで、児童の読書機会が確保されています。この図書館の貸出書籍は多様なジャンルを含んでいるため、児童にとって興味を引かれる本が多く、比較的利用される機会が増えている傾向にあります。中学校も、図書室の利用者数は決して多くありませんが、近年、昼休みの時間帯に図書室を利用する生徒が少しずつ増加しています。これは、読書の習慣が定着しつつあることや、授業の中で自主的な学習の一環として活用される場面が増えていることによるものと考えられます。また、牟岐町図書館から学期ごとに５０冊の貸出を受けており、こちらは生徒が好む書籍が多く含まれているため、学校図書に比べて利用頻度が高い傾向にあります。特に、話題の書籍や学習に役立つ本が含まれることで、生徒の読書意欲が高まり、積極的に活用されている状況です。現在、学校図書費の計上はしていませんが、中学校では保護者から年間６００円の学級図書費を集め、それを活用して学校の蔵書を増やしています。また、牟岐町図書館では、廃品回収で得た資金をもとに、保・小・中学校にそれぞれ２万円分の書籍を年２回、提供しています。今後、学校図書の充実に図るために、蔵書数を増やし、児童生徒が幅広いジャンルの本に触れる機会を増やすことや快適な図書利用環境の整備が挙げられますが、すぐには出来ないので、牟岐町図書館との連携をさらに強化し、児童生徒が興味を持ちやすい書籍を選定し、利用促進につなげていきます。３つ目の牟岐

の子どもの課題と保・小・中の連携です。児童生徒の学力に関しては、それぞれの学年や個々の児童生徒の個性により得意・不得意があるため、一律に述べることは難しい状況です。そこでここでは昨年度の全国学力・学習状況調査の結果に基づいて報告します。調査の対象は昨年度の中学3年生と小学6年生であり、教科は国語と算数・数学です。牟岐町のHPにも掲載されています。小学校の国語に関しては、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」とともに良好であり、全領域で正答率が高い状況です。特に「話すこと・聞くこと」を得意とする児童が多い一方で、「書くこと」に苦手意識を持つ児童が多くいることが課題として挙げられます。算数については、「数と計算」における基本的な四則計算や公式の習得ができており、「変化と関係」における速さの計算や「データの活用」に関しても必要な情報を抽出しながら考える力が育まれています。しかし、「図形」の正答率は他の領域と比較すると少し低い傾向にあります。これらの課題に対応するため、小学校では新聞記事の要約や意見交換の時間を設け、文章を書く際には文字数などの条件を設定し、条件に沿った記述力を伸ばす取り組みを行っています。また、算数ではデジタル教科書を活用し、見取り図や展開図を用いて図形の立体的なイメージをつかむ学習を進めています。中学校の国語では、短歌などに親しむことができていましたが、文章の要約や自分の考えを簡潔にまとめることに課題があり、記述力の向上が求められています。数学では、基本的な計算や単式の問題に強い生徒が多い一方で、文章題や2段階以上の過程が必要な問題には苦手意識を持つ生徒も見られます。そこで、国語の授業では作文指導の回数を増やし、要約のポイントを確認しながら記述の実践を重ねる取り組みを進めています。また、数学では基礎基本を大切にし、意味の理解につなげる指導を行うとともに、ICTを活用して数字や図形の変化を視覚的に捉えやすくする工夫をしています。体力の現状と課題ですが、中学校の全国体力・運動能力調査の結果では、多くの項目が全国平均を下回っている状況ですが、令和6年度は令和5年度と比較して改善傾向が見られました。小学校では、新体力テストの結果や運動の様子から、コロナ禍以降の体力低下が顕著であり、体調不良や欠席する児童が増加している傾向にあります。この状況を改善するため、休み時間の外遊びを奨励し、週に一度昼休みを長く確保することで、児童が屋外で体を動かす時間を確保しています。さらに、学校全体の体力向上を目的として全校体育を実施し、海での体験活動などを積極的に導入するなど、教員が連携しながら指導に取り組んでいます。保・小・中の連携についてです

が、市宇ヶ丘学園は、保小中一貫教育構想に基づき、縦のつながりを重視し、0歳から15歳までの継続的な教育活動を行っています。教職員は「知・徳・体」の3つのグループ、三部会に分かれ、それぞれの分野で子どもの成長を支えています。今年度の「知の部会」では、子どもたちの「聞く力」を養う学習活動を推進しています。「徳の部会」では、挨拶の習慣を促進したり、SNSの適正な使い方についての指導を行ったりしています。「体の部会」では食育の充実や知力向上のための取り組み、合同運動会の実施方法を話し合っています。それぞれの部会で年度初めに各校の現状や重点目標を共有し、年度末には成果と課題を確認しながら、より良い教育活動を、めざしています。また、各学期に一度、保・小・中合同で研究授業や講演会を開催し、園・学校のそれぞれの特色を認め合い、互いに学び合う場を作っています。このように、児童生徒の学力や体力の向上をめざし、教育活動を進めながら、今後もより良い学習環境を整えていきます。以上で私からの答弁を終わります。

喜田議長 木本議員。

木本議員 教育長、ご答弁を誠にありがとうございました。ICT教育の推進については、タブレット端末の利便性を生かすとともに、安全面への配慮や家庭学習への活用が益々重要になってきています。柔軟な対応を今後も期待しています。また、学校図書の充実と、その活用は、子どもたちの読解力や学ぶ力を育む上で欠かせないものです。図書費の安定的な確保、そして、日常的に本に親しめる環境づくりに、今後も力をいれていただければと願っています。そして、こどもたちの「知・徳・体」のバランスがある成長のために、現場と行政がしっかり連携し、町全体で支えていくことの大切さを改めて感じています。今後も、子どもたちの未来のために、行政と地域が一丸となって取り組んでいけることを願い、私の質問を終わらせていただきます。本日は、ありがとうございました。